

3. 観光防災対応の役割分担

ここでは、観光関係者間の平常時も含めた役割分担、および対応の流れを整理します。

3-1 関係者間の役割分担

- 発災時に適切な対応を行うためには、関係者間の役割をあらかじめ決め、それぞれがその役割を十分に理解しておくことが重要です。下表は富士河口湖町における各観光関係者の役割分担を、『平常時』と『発災後』に分けて示したものです。今後の検討の中で、それぞれが果たす役割を具体化していくことが求められます。
- 行政組織である町は、平常時においては発災時に適切な対応ができるように備蓄の確保やインフラの整備、避難訓練や講習会の実施などを行います。発災後は、関係各所から情報を集約し、それに基づいた適切な指示と情報発信を行い、全体の対応を先導します。
- 観光連盟・観光協会は、観光関係者の取りまとめ役として、平常時においては災害時対応を想定した体制の構築や災害時対応の関係者への周知などを行います。発災後は、地区ごとの状況を取りまとめて町に報告します。また、町と協議して被災した観光客への対応を決定し、各所への指示・連絡を行うなど、中継ぎの役割を果たします。
- 観光事業者・交通事業者においては、町に訪れている観光客と直に接していることから、観光客へ直接対応する役割を担います。発災後は、観光客の安全確保や被災した観光客に関わる情報の収集と観光協会への報告、一時滞留場所や収容施設への誘導・移動支援、交通機関復旧後の帰宅支援などが考えられます。
- こうした災害時の対応がスムーズに行えるように、平常時においては、付近の一時滞留場所・収容施設の確認、避難訓練の実施などを定期的の実施することが求められます。

■関係者の主な役割分担

関係者	平常時	発災後
町	○食料や物資の備蓄 ○避難場所・避難施設の設定 ○情報伝達インフラの確保 ○災害時対応を想定した体制構築 ○避難訓練、講習会等の実施 ○災害時対応の関係者への周知 等	○町全体の被災状況の情報集約・整理 ○被災観光客に関わる情報集約・把握 ○観光連盟・協会との協議による対応方針の決定 ○一時滞留場所、収容施設の開設の判断・要請 ○一時滞留場所の運営、運営補助 ○災害・復旧情報の発信 ○備蓄の配分 ○対外的な支援の要請 ○災害対応に要した費用の支援 等
観光連盟 観光協会	○災害時対応を想定した体制構築 ○避難訓練、講習会等の実施 ○災害時対応の関係者への周知 等	○各地区の観光施設の被害状況の整理 ○各地区の被災観光客数、傷病者数等の整理（帰宅困難観光客名簿の作成 等） ○各状況を行政に報告 ○行政との協議による対応方針の決定 ○観光事業者への対応方針や情報の伝達・指示 ○一時滞留場所の運営、運営補助 等

観光事業者 交通事業者	○食料や物資の備蓄（可能分） ○施設の防災対策の実施（耐震化・不燃化など） ○避難場所・避難施設の把握 ○避難訓練、講習会等の実施・参加等	○観光客の安全確保、施設での待機指示（一斉帰宅の抑制） ○施設の被害状況の確認 ○被災観光客数、傷病者数等の確認・報告 ○一時滞留場所への誘導・移動支援 ○収容施設の開設・輸送支援（施設所有マイクロバス等の活用） ○被災観光客に対する備蓄食料・物資の提供 ○被災観光客に対する災害・復旧情報の提供 ○帰宅困難者の受入れ（災害が長期化した場合） ○帰宅支援（交通機関復旧後）等
----------------	--	---

3－2 災害時の観光防災対応フロー

関係者それぞれの役割が定まったら、災害の発生を想定して、災害時の観光防災対応の流れを検討し、シミュレーションしておくことが重要です。

次頁に示すフローは、交通寸断が起きるような大規模な災害が、観光のハイシーズンの日に発生した場合を想定し、発災後3日間の流れを示したものです。

こうしたフローは、大規模災害が夜間に起こった場合、地区が孤立するような災害が起こった場合、災害によって電話やインターネットが使えなくなった場合など様々なケースが想定されます。

◆災害時の対応フロー（例：交通寸断が起きるような大規模な災害が、観光のハイシーズンの日中に発生した場合）

